

港北ニュータウンにおけるグリーンマトリックスシステムの実態と評価  
 —荇田東 1～3 丁目、荇田南 5 丁目を対象として—

21218056 村松 和香  
 指導者 葉袋 奈美子 准教授

ニュータウン開発 沿道景観評価 都市計画  
 道路計画 グリーンマトリックスシステム

1. 研究の背景と目的

横浜市都筑区に位置する港北ニュータウン（以下 NT）は昭和 40 年<sup>1)</sup>に良好な郊外住宅環境の整備を意図して事業が計画された。港北 NT は、国土交通省の大規模 NT リストによると日本国内における NT 開発の中で最大の区画整理事業と位置付けられ、自然環境にも配慮した NT 計画であることも知られている。

本研究では、港北 NT のグリーンマトリックスシステムと住民の自主的な居住環境表現であると考えられる沿道住宅の関係性に着目する。調査員の目視による街並み評価を行い、それらが相互に港北 NT の特徴や魅力に関係していることを明らかにする。

2. グリーンマトリックスシステムの概要と対象地域

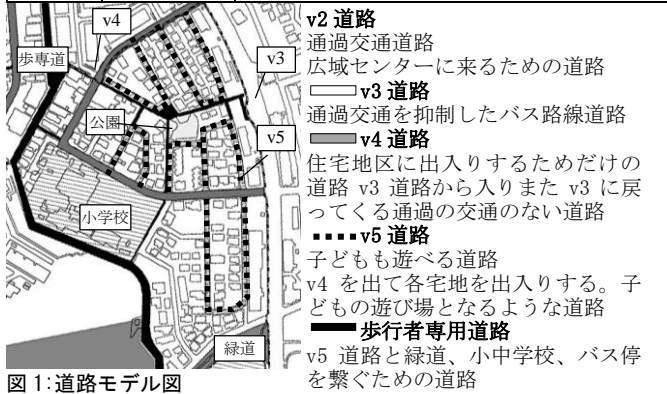
海外のオープンスペース計画を取り入れた日本初のグリーンマトリックスシステムは、緑地を最大限保存するための手法として考案された。公共空地や公園、小中学校を連続的に配置し緑道・幅広の歩行者専用道路によって連続的に繋ぐことで土地利用を統括することをねらいとして計画され、道路は大きくオレンジ系とグリーン系の 2 つに分類される。（表 1・図 1）

3. 対象地域の概要と調査方法

様々な要素を含んだ地域が今後の道路空間を考える上で適切と捉え近隣センターの商店街と 2 つの団地を含み、南北・東西方向の歩行者専用道路をもつ荇田東 1～3 丁目、

表 1: グリーンマトリックス計画の概要

系統	主な道路	目的
オレンジ系	歩行者専用道路	通勤・通学、買い物などの日常的生活機能の動線への対応
グリーン系	公園・緑道	緑地保全・生態系の保全/レクリエーションの場の確保



荇田南 5 丁目地域を対象とし、設計時生活行為が成立するとされた小中学校区を調査対象地域とした。大学生、大学院生 10 名を調査員として街並み評価調査<sup>2)</sup>を行い、良い景観や悪い景観、予想される行為や評価の要因等を明らかにした。次に沿道住宅を対象として住宅調査<sup>3)</sup>を行い、住民の表現する沿道景観を明らかにした。各調査の調査項目は表 2・表 3 に示した通りである。

4. 道路計画と評価

4-1 評価地点と着目行為の分析

評価に際して着目した行為を日常生活行為（通勤や通学、買い物等）とレクリエーション行為（立ち話や子どもの遊び、写生等）に分類すると、緑道や公園、団地内ではレクリエーション行為への着目が多い。v4 道路、v5 道路では日常生活行為だけでなく、レクリエーション行為にも着目されていることから道路計画により予想された行為が誘発されていると考えられる。（図 2）

4-2 対象者別評価観点とその要因

調査員が対象とした評価観点は子ども、通行人、住民が評価の 78.7% を占めている。共通して広い幅員や周囲の緑など「道路」に関する評価記述がみられることから、道路環境を整えることには意義があると考えられる。また通行人や住民の視点からは「住宅空間」についての記述が見受けられた。庭の手入れや街並みが評価において印象を分ける要因となっていることから、道路空間だけではなく沿道住宅等の住民意識によって形成された沿道景観も街の印象に影響を与えているといえる。（表 5）

表 2: 調査員による街並み評価の項目 表 3: 目視による住宅調査の項目

<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い・悪い・気になる景色の撮影</li> <li>・計画時に考えられた行為(着目行為)</li> <li>・評価の対象者</li> <li>・何がその評価につながるか(対象物)</li> <li>・どんな印象をうけるか</li> </ul> (評価カード回収数 222 枚)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車スペースの位置</li> <li>・玄関の向き</li> <li>・住戸側植栽の有無</li> <li>・樹木の有無</li> <li>・基礎高さ</li> </ul> (対象戸数 441 戸)
---	---

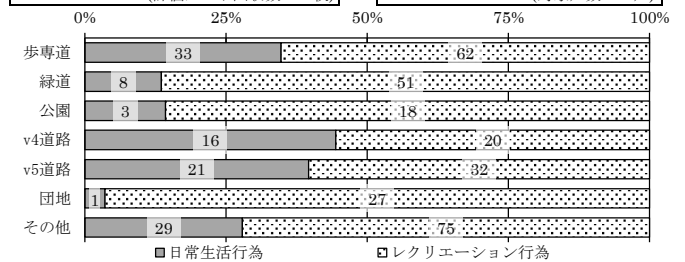


図 2: 着目行為別評価数 (着目行為回答数 n=195 複数回答)

表 4: 視点別主な評価観点と評価要因 (n=212)<sup>4</sup>

要因*	子ども (24.1%)		通行人 (26.8%)		住民 (27.8%)	
	公園/広場	道路	住宅空間	道路	住宅空間	道路
+	親の見守り場 視界・見通し 自由自在な使用 方法	広幅員 緑の多さ	生垣・庭の利便 スカイライン 立ち話のスペース	景色/季節感 広幅員 舗装	日照 アクセス性 植木鉢 アクセス性	せせらぎの音 自然・緑
-	整然・閑散 使用されていない	整備不足 歩道なし	ごみ置き場	電柱 殺風景	急傾斜の階段 ゴミ捨て場	駐車場 用途不明な空間
△	遊具の種類 遊具の有無 ベンチの有無		植栽手入れ 清掃状況 特徴的な住宅 住宅の色	歩道の有無 自転車との分離 清掃状況	畑の整備状況 外装 家並み 人通りの有無	使用感

\*+は良い評価・印象につながる要因、-は悪い評価・印象につながる要因、△は評価・印象をわける要因

4-3 道路環境と沿道住宅の構成

住宅の玄関が面している（沿道住宅）数を道路種類別にみると歩行者専用道路の沿道には住宅があるものの、玄関が面している住宅がほぼ見られなかったことから住宅に注意がいかないようにする住民の配慮が感じられる。記述地点は、計画上付近の住民以外の通過交通がほとんどないとされている v5 道路上での評価数が多く、住民同士で道路を共有するように設計されている道路であるため沿道景観への配慮がなされていると考えられる。評価記述内容をみると、住民の塀が生垣とされている、庭と駐車スペースの配置に良い印象を受けている一方で、前庭がない場合や人の気配が感じられない場合に、悪い印象を受けていた。また、D 3 に示したように車庫の壁面が連続している道路上では評価記述が見られなかった。以上より沿道に住民のあふれ出しが感じられる空間を計画することで歩行者や住民は各々の暮らしの工夫が感じられ住環境を形成していると考えられる。(表 5・図 3)

表 5: 地域別道路環境と住環境に関する主な評価記述

道路種類	沿道住宅数(戸)	総延長(m)*	評価数			住宅に関する主な記述 括弧内の表記 左:評価が行われた場所(道路種類) 右:良-良い評価、悪-悪い評価、記入無-どちらでもない			
			評価数	玄関前	家の横		1階		
荏田東1	歩専	1	20(1)	1	0	0	(区:良)住宅の緑が塀の代わりとなっている。単に壁があるより、雰囲気が良い。家の緑がよく整えられており心地よい。家の周りの庭や駐車スペースの配置が手狭だが排除せずに楽しんでいて心地よい。		
	区画	55	5494(2)	21	10	20	4	(v5:良)家の前の駐車場所が空いており立ち話しやすい。植木鉢に自然を感じほっとする	
	v5	75	1812(5)	24	23	28	0	(v5)家の色が青と赤で対になっていて印象的	
	v4	51	1028(2)	18	19	12	2	(v5)家並みが単調で面白くない	
	計	182	9261(10)	53	64	52	60	6	(v4:良)住宅前の空間の視界が広いので話したり遊んだりしたい
荏田東3	歩専	0	814(0)	0	0	0	0	(v4)住宅の庭に緑が生い茂っており、なにが植えられているのか、どんな風に育っているのか気になる	
	区画	33	755(0)	7	5	8	13		
	v5	73	1165(0)	23	16	25	9		
	v4	9	502(1)	1	0	7	1		
	計	115	3236(1)	31	21	40	23		
荏田東2	歩専	0	216(1)	0	0	0	0	(歩)家の塀にダストスペースが収納されている。	
	区画	49	1577(4)	14	13	7	24	5	(区:良)住宅の間に高低差があり見晴らしが良い。各々が家の庭で家庭菜園を行っていて雰囲気がよく明るいイメージ
	v5	26	1234(2)	4	11	5	8	2	(区:悪)家の前庭にあまり緑がなく、駐車場になっている。緑の手入れがないため立ち話なども生まれなさそう
	v4	18	618(0)	16	7	5	5	1	(v5)家の前で野菜やみかんを育てていて珍しい。石畳の通り沿いの家がまとまっている雰囲気だった
	計	93	3645(7)	59	31	17	37	8	
荏田南5	歩専	2	600(0)	22	0	0	0	2	
	区画	8	382(0)	4	5	2	1	0	
	v5	30	1273(1)	11	12	13	5	0	(v4:悪)だらっ広い道路と特徴のない住宅は人気もなく閑散としている。冷たいイメージ
	v4	11	830(0)	7	1	5	5	0	
	計	51	3085(1)	44	18	20	11	2	

\*デジタウン神奈川県横浜市都筑区(2015年9月発行)距離計算ソフトにより計測 \*\*評価数括弧内は評価のうち住宅に関する記述がある評価数



図 3: 住宅に関する評価地点と沿道景観

6. 結論

以上から、道路計画において計画時に考えられていた行為が誘発されているといえる。また道路だけでなく住宅の空間構成や庭の整備等沿道住宅がおりなす景観が街の印象に関わっており、よりよい住環境を形成するためには住民の住まう上での工夫が今後も望まれる。

【註釈】1 事業計画年度のこと  
2 調査日 2015 年 10 月/11 月。晴れた日に計 2 日間実施。時間帯は午前中に行なった。  
3 調査日 2015 年 11 月/12 月。晴れた日に計 5 日開行い、マンションアパート等は除外した。  
4 全評価カード数のうち視点別に記述がある評価数を分母とした  
【参考文献】・住宅・都市整備公団神奈川地域支社港北開発事務所/OPEN SPACE KOHOKU 港北地区オープンスペース計画設計技資料集/1998. 5  
・横浜市 HP: 横浜市行政地図情報提供システム道路台帳図情報よこはまのみち (http://www.city.yokohama.lg.jp/index.asp?dtp=5&ad1=2C5, 平成 27 年 12 月 3 日)